

(別表第4)

第三セクター情報公開資料

1 第三セクター名称等									
名称		株式会社 岩城		電話番号	0184-74-2100				
所在地		秋田県由利本荘市岩城下蛇田字高城2番地1		FAX番号	0184-74-2637				
設立年月日		平成26年4月1日		HPアドレス	http://k-iwaki.co.jp/index.html				
2 資本金		100,000千円	市出資金	85,300千円	市出資割合 85.3 %				
3 事業内容		1.道の駅「岩城」関連施設の管理運営(岩城総合交流ターミナル「ケベック」(売店、レストラン)、岩城温泉「港の湯」、岩城オートキャンプ場・コテージ等) 2.道の駅「岩城」に係る受託業務(駐車場、トイレ、休憩施設等の維持管理) 3.天鷲村、天鷲城等の観光施設及び遊園地の維持管理並びに同施設の運営業務 4.飲食店及び売店の経営 5.観光案内及び旅行斡旋 6.在宅配食サービス事業 7.各種イベントの企画立案及び運営管理業務 8.農産物の加工製造及び販売 9.地方公共団体の委託による日直業務及び諸届出書を受理する業務 10.労働者派遣事業 11.果実酒類の製造販売 12.農産物の缶詰加工及びジュースの製造販売 13.上記に関連する一切の事業							
4 財務状況(平成31年3月31日現在)									
貸借対照表から	項 目	金 額 (千円) 税抜き			損益計算書から	項 目	金 額 (千円) 税抜き		
		前々年度	前年度	本年度			前々年度	前年度	本年度
	総資産	77,682	64,625	57,531		総収入(売上高+営業外収益+特別利益)	338,146	302,148	294,870
	負債	48,183	52,752	57,959		(内市からの補助金・指定管理料)	39,128	39,128	42,838
	(有利子負債)	15,000	20,300	19,100		経常利益	△ 1,989	△ 17,294	△ 11,962
	純資産	29,499	11,873	△ 428		当期純利益	△ 3,679	△ 17,626	△ 12,301
	利益剰余金	△ 82,551	△ 88,127	△ 100,428		減価償却前当期利益	△ 1,106	△ 14,676	△ 9,620
5 役職員の状況(平成31年3月31日現在)									
取締役数(うち市出向者・退職者)		5 (退 0)		正職員数(うち市出向者・退職者)		13 (退 0)			
6 第三セクターへの関与の状況(単位:千円 税込み)									
(1)公的支援(平成31年3月31日現在)									
項 目		前々年度	前年度	本年度	備考(目的、内容、算出根拠等)				
①補助金(助成金)		0	0	4,006	天鷲ワイン城修繕補助金 他				
②利子補給		0	0	0					
③税の減免額		0	0	0					
④その他		0	0	0					
小 計		0	0	4,006					
⑤損失補償契約に伴う金利軽減額		0	0	0					
⑥出資金、低金利貸付等に伴う機会費用		0	0	0					
小 計		0	0	0					
合 計		0	0	4,006					
【参考】指定管理料(税込)		42,258	42,258	42,258	道の駅・天鷲村・天鷲城及び周辺施設・ワイン城				
(2)その他(平成31年3月31日現在)									
項 目		前々年度	前年度	本年度					
①損失保証契約に係る債務残高		0	0	0					
②貸付金残高		0	0	0					
③出資金(増資等)		0	0	0					
合 計		0	0	0					
7 添付資料 貸借対照表、損益計算書									

※本資料は、第33期決算報告書(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)に基づいて作成したものである。

決 算 報 告 書

(第 3 3 期)

自 平成 3 0 年 4 月 1 日

至 平成 3 1 年 3 月 3 1 日

株式会社 岩城

由利本莊市岩城下蛇田字高城 2 番地 1

0 1 8 4 - 7 4 - 2 1 0 0

株 式 会 社 岩 城

平成 30 年度（第 33 期）事業経過報告書

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、弊社は皆様の温かいご支援とご協力により、株式会社岩城としてスタートして五度目（平成 30 年度）の決算を迎えることとなりました。

平成 30 年度の事業経過につきまして、下記のとおりご報告申し上げます。

【全体の実績経過】

今年度の売上実績は 247,314 千円で、昨年度比較（以降前年比と云う）△10,575 千円となりました。売上原価は 103,473 千円（前年比△10,428 千円）、により売上総利益は 143,841 千円（前年比△147 千円）総利益率 58.2%（前年比 2.4%増）販売費及び一般管理費は 203,132 千円（前年比△2,200 千円）となりました。

従って、営業損失は 59,291 千円となり営業外収入 47,556 千円、営業外費用 227 千円等により経常収支は、残念ながら△11,962 千円（前年比 5,332 千円）となりました。特別損失（固定資産除却損）135 千円、法人税等 204 千円等により当期純損失は 12,301 千円（前年比 5,325 千円増）となっております。

販売費及び一般管理費としては水道光熱費 52,383 千円（前年比 2,002 千円）保守管理費 12,427 千円（前年比 5,102 千円）と増加しましたが、人件費 107,910 千円（前年比△6,514 千円）が減少要因となっております。また、減価償却費 2,300 千円と 100%の計上をしております。

【天鷲ワイン事業課】

【実績経過】

今年度の売上実績は 20,820 千円で前年比△10,264 千円となっております。売上原価 17,103 千円（前年比△10,718 千円）の結果、売上総利益は 3,717 千円（前年比 454 千円）総利益率 17.9%（前年比 7.4%増）となりました。販売費及び一般管理費は 14,900 千円（前年比 137 千円）で推移し、営業損失 11,183 千円となり、営業外収益 8,201 千円を加え、経常損失 2,982 千円（前年比 3,861 千円）当期純損失は 3,050 千円となりました。

売上高の減少要因としては、人員不足による営業力低下に加え、秋田県酒類卸の人員整理及び合理化によるカバー率等の低下が売上減少の一因となっております。また、昨年度は生産調整のため原料仕入を一部控えたため結果的には、期末棚卸高が△2百万円圧縮され損失増加の要因になりましたが、今期は改善されております。

昨年10月開催されました天鷲ワインまつりでは、盛岡のソムリエ松田宰先生を講師にワインの講演会を道の駅岩城で開催致しました。席上プラムワインと食についての討論会も行い、プラムワインの良さについて参加者一同再認識することが出来ました。

現在、原材料の安定確保のために、自社農園の苗木剪定及び農園環境整備を徹底し、糖度のある良質の果実生産に努めプラムワインの品質向上に努めてまいります。

また、今後も秋田県総合食品研究所との関係を密にして、プラムの品種の違いと最適な酵母の相性等の共同研究を行ってまいります。

また、昨年より矢島地域でワイン専用品種ブドウの生産を始めた方がおり、秋田県総合食品研究センターと共同で新しいワインの試験醸造を弊社で行い完成品の一部を試験販売行っております。今後も一層の連携を図ってまいります。

また、お客様の嗜好の変化に伴う対応策として、より糖度の高い甘味果実酒製造免許取得についても検討してまいります。

【天鷲村事業課】

【実績経過】

今年度の売上実績は 40,567 千円で前年比△5,381 千円となっております。売上原価は 15,201 千円（前年比△2,503 千円）、売上総利益は 25,366 千円（前年比△2,878 千円）総利益率 62.5%（前年比 1.0%増）。販売費及び一般管理費は 43,310 千円（前年比△2,755 千円）により営業損失 17,943 千円となり、営業外収益 15,169 千円を加え、経常損失 2,813 千円（前年比△399 千円）、当期純損失は 2,882 千円となりました。

【売上状況】

売店部門	11,730 千円	前年比	△3,061 千円
食堂部門	13,084 千円	前年比	△1,173 千円
配食部門	1,889 千円	前年比	△ 268 千円
入村料	1,243 千円	前年比	△ 882 千円
受託業務	12,621 千円	前年比	3 千円

一昨年「真田丸」放映終了に伴い、来館者も減少傾向が続き各部門で売上実績が昨年度を下回りました。

特に売店部門は、来館者の減少と当市における大型イベントの減少等による出張販売及び立寄り客の減少により前年を大きく下回る実績で推移しました。

また、依然として大型バス旅行の運行規則が大変厳しくなり、今まで開拓してきた商圏の団体客の獲得確保が非常に厳しい状況にあります。

配食部門は、メニューの見直し、配達員の声掛けや売店の商品宅配サービスによりクレームがなくなり利用者より評価を得ておりますが、利用者の介護施設への入居や他界なされ減少傾向にあり、市と協議し休止も視野に検討してまいります。

【販売費及び一般管理費状況】

増減幅の大きかった経費として

人件費	29,733 千円	前年比	△1,118 千円
車両用費	778 千円	前年比	△ 351 千円
支払手数料	222 千円	前年比	△ 238 千円

【入場者数状況】

今年度の入場者数は 4,352 人です。前年比△2,869 人で推移しました。

昨年度は、当市で開催された「ねんりんピック全国大会・県種苗交換会」等の大型イベントによる立寄り客も多かったが、今年度は、残念ながら前年比 60.3% と大幅に減少しました。

食堂部門の改善に努め、アイランドパーク事業課との連携を一層強化し、お客様の満足度向上に心掛けてまいります。

市と連携した企画やイベントへの参加。また、お土産品の開発と商品化に積極的に取り組んでまいります。

【岩城アイランドパーク事業課】

【実績経過】

今年度の売上実績は 190,284 千円で前年比 3,277 千円となっております。売上原価は 75,526 千円（前年比 1,000 千円）、売上総利益は 114,758 千円（前年比 2,277 千円）総利益率 60.3%（前年比 0.2%増）となりました。販売費及び一般管理費 144,923 千円（前年比 418 千円）により営業損失は 30,165 千円となりました。

営業外収益 24,187 千円及び営業外費用 189 千円により経常損失は 6,167 千円（前年比 1,870 千円）、当期純損失は 6,369 千円（前年比 1,736 千円）となりました。

【売上状況】

売店部門	48,263 千円	前年比	1,713 千円
レストラン部門	87,484 千円	前年比	231 千円
温泉部門	38,684 千円	前年比	△ 23 千円
施設使用料	4,346 千円	前年比	61 千円
オートキャンプ場	8,858 千円	前年比	1,295 千円
受託業務	2,649 千円	前年比	同

4 月以降、天候に恵まれ交流ターミナル等の来客にも大きな影響を与え売上増の要因となっております。温泉部門での前年比マイナス以外は総じて好調に推移致しました。しかしながら男鹿、大湯に新しい道の駅が開設され、また二ツ井の全面リニューアルオープンと道の駅の取り巻く環境は年々厳しさを増して来ております。

6 月は「岩城・湯沢 旨いもの自慢」、7 月は「第 3 4 回洋上花火大会」は天候にも恵まれて予定どおり開催され多くのお客様で賑わいました。しかし、8 月 25 日の「岩城ふれあい港まつり」は台風のため中止となっております。

【販売費及び一般管理費状況】

増減幅の大きかった経費としては

人件費	73,814 千円	前年比	△1,802 千円
水道光熱費	46,610 千円	前年比	2,211 千円
保守管理費	5,443 千円	前年比	423 千円
消耗品費	6,084 千円	前年比	△ 750 千円

※減価償却 2,061 千円については、毎年償却資産の再評価を行い 100%の償却を行っております。

【入場者数状況】

交流ターミナル	234 千人	前年比	1 千人
温泉館	150 千人	前年比	△ 1 千人
オートキャンプ場	4 千人	前年比	同

地魚をメインにしたレストランメニューが好評なことから、今後も地元産食材を積極的に活用したメニューの開発と提供に努めてまいります。また、食材価格が高値推移していることから、提供価格の見直しを行い収益向上に努めてまいります。今後も道の駅の日、道の駅バトル、秋田由利牛指定店キャンペーン等に積極的に参画し、他の道の駅と連携した活動を行ってまいります。

経費面では、特に、温泉部門は灯油価格の値上り等もあり（水道光熱費 前年比 2,211 千円の増加）現行の入湯料金では採算割れをおこしており非常に厳しい経営状況にあります。今後、市に対し利用料金の値上げまたは指定管理料の見直し等積極的に交渉してまいります。

施設整備管理では、交流ターミナルの屋根防水工事、温泉ボイラー関係、売店自動ドア等が経年劣化してきており今年度中に改修工事をする予定です。

敬具

貸借対照表

株式会社岩城

平成31年 3月31日 現在

単位：円

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 47,682,827】	【流 動 負 債】	【 47,028,743】
現 金	2,435,929	買 掛 金	6,144,680
預 金	2,085,213	短 期 借 入 金	15,000,000
売 掛 金	1,533,587	未 払 金	16,629,743
商 品	3,671,180	未 払 費 用	2,554,292
製 品	3,374,718	未 払 法 人 税 等	204,000
原 材 料	4,781,162	未 払 消 費 税 等	1,534,800
仕 掛 品	25,373,565	前 受 金	553,270
貯 蔵 品	2,777,428	預 り 金	1,607,958
前 払 費 用	57,510	仮 受 金	2,800,000
未 収 入 金	1,592,535	【固 定 負 債】	【 10,930,226】
【固 定 資 産】	【 9,847,832】	長 期 借 入 金	4,100,000
(有 形 固 定 資 産)	(9,147,827)	預 り 敷 金	900,000
建 物	1,213,534	長 期 未 払 金	379,134
建 物 附 属 設 備	5,459,140	リ ー ス 債 務	5,551,092
機 械 装 置	31,537,823	負 債 合 計	57,958,969
車 両 運 搬 具	592,500		
工 具 器 具 備 品	18,816,516		
リ ー ス 資 産	9,932,400	純 資 産 の 部	
減 価 償 却 累 計 額	▲58,404,086	【株 主 資 本】	【 ▲428,310】
(無 形 固 定 資 産)	(443,280)	資 本 金	100,000,000
電 話 加 入 権	443,280	(利 益 剰 余 金)	(▲100,428,310)
(投 資 そ の 他 の 資 産)	(256,725)	利 益 準 備 金	5,000,000
出 資 金	36,600	そ の 他 利 益 剰 余 金	▲105,428,310
差 入 保 証 金	85,000	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	294,912
長 期 前 払 費 用	134,980	繰 越 利 益 剰 余 金	▲105,723,222
配 当 積 立 金	145	純 資 産 合 計	▲428,310
資 産 合 計	57,530,659	負 債 ・ 純 資 産 合 計	57,530,659

損益計算書

株式会社岩城

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

単位：円

科 目	金 額	
【売 上 高】		
売 上 高		247,314,010
【売 上 原 価】		
期 首 棚 卸 高	10,189,674	
仕 入 高	86,719,627	
酒 税	677,100	
当期製品製造原価	14,289,328	
* * 合 計 * *	111,875,729	
期 末 棚 卸 高	▲8,402,869	103,472,860
売 上 総 利 益 金 額		143,841,150
【販売費及び一般管理費】		203,132,250
営 業 損 失 金 額		▲59,291,100
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	549	
受 取 配 当 金	300	
雑 収 入	47,555,302	47,556,151
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息	181,121	
雑 損 失	45,816	226,937
経 常 損 失 金 額		▲11,961,886
【特 別 損 失】		
固 定 資 産 除 却 損		135,201
税引前当期純損失金額		▲12,097,087
法人税、住民税及び事業税		204,136
当 期 純 損 失 金 額		▲12,301,223

令和元年度計画の骨子

【 目 指 す べ き 合 併 効 果 】	
1.総務、経理部門 ①会計システムの統合 ※税理士との協議必要 ②その他総務、経理の一元管理とスリム化	
2.企画・営業部門 3社連携した企画・営業活動を目指して行く。	
3.売店部門 ①採算の取れるイベント出店。(人材の活用) ②仕入と在庫の一元管理によるコスト削減とムダを省く。 ③レジシステムを統合し一括管理する。(日計数値他) (ボジレジには、予算的課題あり今後の検討事項)	
4.レストラン・食堂部門 ①仕入原価の改善。(仕入先の統一) ②料理長を中心に顧客ニーズに合せたメニューの企画・開発のため勉強会の実施。 ③外部講師による調理指導開催。 5.人事交流 (H27年度より一部実施) ①人員の適正配置。 ②補充及び補充等柔軟な配置。 ③組織の活性化。 パート、嘱託社員の正社員化を実施。	
6.経費の削減 ①今計画は人件費を含め各社の過去実績を踏まえた削減数値を基に作成しており更なる圧縮に努める ②最大の経費である水道光熱費は、灯油価格の動向より大きな変化が予想される。LPGは業者変更している。 ③修繕費及び保守管理費用は機種老朽化に伴い経費増が予想されるが計画的保守推進する。 ④その他共通の経費については、一部では合併の効果が出て来ているものの改善すべき項目もあることから 鋭意削減に努めて行く。(広告宣伝費他) ⑤照明器具のLED化推進。但し初期投資必要となる。	
【課題と今後の方向性】 ・ワイン事業課 販売・製造品(ワイン)の品質低下による顧客離れは否めず、売上不足・仕掛在庫による恒常的な資金不足の傾向が続いている。 社員退職に伴う人件費の圧縮期待。 不採算部門の見直しによる作業効率の向上と収益力の向上を目指す。 ・天鷲村事業課 食堂の立て直しと、適正人員配置。 食堂メニューの見直しと作業の効率化、食材原価率の改善を図る。 ・配食サービス部門 恒常的に厳しい資金繰り状況が続いている。特に温泉部門で大きな赤字を計上しておりまた、灯油価格値上りによる、経費負担も大きいことから市に入湯料金値上げを交渉して行く。併せて灯油代の補助金復活を働き掛けて行く。 施設及び各機器の老朽化による経費増が懸念されることから市と協議し計画的に取組んで行く。	

【 計 画 の 骨 子 】	
【計画損益計算書】	
売上計画 状況下急速なV字好転は期待できず実勢を踏まえ 前年並みに計上している。	
収益面 令和元年度黒字転換することを前提とした計画にしている。売上等収益確保と経費削減に努め単年度黒字化を目指す。 経費面 灯油代の価格変動により収益に大きく営業あり、水道高熱費は前年並みで計上する。 人件費 人員は現状維持但しベースアップ分増加。	
※計画は消費税8%換算	
【計画の骨子】	
天鷲ワイン ①販売商品の絞り込みと品質の向上 ②営業力の強化、不採算部門の見直しと作業効率 ③資金繰りの改善と経費圧縮 ④人員補填による組織・体制強化	
天鷲村 ①食堂部門の改善 メニューの絞り込み ②経費の削減・食材原価率の改善 ③資金繰りの改善 ④ミニイベント定期開催による賑わい創生	
岩城アイランドパーク ①未収金・未払金等財務内容の改善 ②決算赤字化と債務超過の解消 ③経費の削減・食材原価率の改善 ④入湯料金は現行のままで計画する	
○令和元年度行事計画 6月2日 岩城・湯沢海と山の旨いもの自慢 2019 7月13日～14日 第41回旧藩祭 7月20日 第35回日本海洋上火火大会 8月下旬 岩城盆踊り大会 8月24日 第19回岩城ふれあい港まつり 10月中旬 天鷲ワインまつり 10月下旬 岩城産直会収穫祭協賛行事 2年 2月下旬 岩城こんぶ・ワカメ祭り協賛事業 2月～4月 由利本荘ひな街道協賛事業	

【 今 年 度 の 事 業 展 開 】	
○天鷲ワイン ・欠員対策として、各人の役割分担の見直しによる組織改革と強化を図る 欠員人員の補充と少数精鋭部隊を構築する。 ・計画的な作業スケジュールにより作業効率の向上と時間的ロスの解消。 ・不採算製品の製造を中止し、主力商品の製造、販売に特化する。 ・人材育成 技術向上に向けた派遣研修 (広島県・酒類総合研究所 原総合食品研究所・花巻市 絹エーデルワイン) ・プラム自社農園の維持管理。 ・甘味果実酒・いけい・りんご酒製造販売免許取得を模索する。 ・原料仕入計画は販売状況を勘案し例年比20%減の16.6トンを抑制する。	
※各商品販売計画は別紙に記載	
○天鷲村 ・「真田丸」関係地として、地域文化を観光商品化として継続する。 ・地域伝統食材の製作体験を含めた体験型観光の実施(例 つばき餅) ・イベントの主催及び各行事への積極参加。特に賑わいを創出するたにも「ピザ会」「生ビール会」等小規模イベントを月極め開催。 ・アイパと連携して顧客嗜好、ニーズに合ったメニュー開発と提供に努める。また、メニューの絞り込みを行い作業の効率化を進める。 ・配食サービスの利用者減少によるコスト負担を考慮し休止を市と協議して行く。 ・従業員が高年齢化しており、随時若手への移行を推進する。	
○岩城アイランドパーク ・収益基盤の確立と資金繰りの安定が急務。 ・経費削減による収益の確保。(仕入原価・人件費ほか) ・温泉事業の赤字解消策として、入湯料金値上(現行+200円上限)を市に積極的に要請。また、灯油代について助成金の復活を働き掛ける。 ・顧客嗜好、ニーズに合ったメニュー・商品の提供に心掛ける。 ・「鳥海選びどり」等地魚を利用したご当地メニューが好評。 ・各イベントの企画と積極関与と「道の駅」のイベントの充実。	
・「道の駅」及び「温泉施設」としての公的な役割を担いながら利用客に施設の価値観を見出してもらえ運営に心掛ける。国交省との連携を強化して行く。	
○令和元年度 事業計画(主要計数)	
単位:千円	
	天鷲ワイン 天鷲村 アイランドP 合 計
総 売 上	25000 48,000 195,000 268,000
売上原価	18000 17,000 77,000 112,000
販 営 費	11000 45,000 142,000 198,000
営業利益	△ 4000 △ 14,000 △ 24,000 △ 42,000
営業外利益	4600 15,400 25,000 45,000
営業外損失	100 200 200 500
経常利益	500 1,200 800 2,500

令和元年4～3月期 損益計算書

(令和元/4～2/3月累計)

社名 株式会社 岩 城

(単位:千円)

項 目		R1年度計画	H30年度計画	H30年度迄実績	計画比	計画対比(%)
営業売上高 (部門別)	天鷲ワイン事業課	25,000	30,000	20,820	△ 9,180	69.4
	天鷲村事業課	48,000	48,000	40,567	△ 7,433	84.5
	岩城アイランドパーク事業課	195,000	195,000	190,284	△ 4,716	97.6
	本支店間相殺額(決算調整)			4,357	4,357	
	計	268,000	273,000	247,314	△ 25,686	90.6
売上原価 (部門別)	天鷲ワイン事業課	18,000	25,000	17,103	△ 7,897	68.4
	天鷲村事業課	17,000	17,000	15,201	△ 1,799	89.4
	岩城アイランドパーク事業課	77,000	75,000	75,526	526	100.7
					0	
	本支店間相殺額(決算調整)			4,357	4,357	
	計	112,000	117,000	103,473	△ 13,527	88.4
売上総利益		156,000	156,000	143,841	△ 12,159	92.2
販管費	人件費	108,000	105,702	107,910	2,208	102.1
	人件費以外の販管費	90,000	89,659	95,222	5,563	106.2
	(内 水道光熱費)	(52,095)	(53,642)	(52,383)	(△ 1,259)	(97.7)
	計	198,000	195,361	203,132	7,771	104.0
営業利益(売上総利益)		△ 42,000	△ 39,361	△ 59,291	△ 19,930	150.6
営業外収入	指定管理料ほか	45,000	45,000	47,556	2,556	105.7
	計	45,000	45,000	47,556	2,556	105.7
営業外費用	支払利息・雑損失	500	500	227	△ 273	45.4
	計	500	500	227	△ 273	45.4
経 常 利 益		2,500	5,139	△ 11,962	△ 17,101	△ 232.8
特 別 利 益		0	0	0	0	0
特 別 損 失		0	0	135	135	
法 人 税 等		204	384	204	△ 180	53.1
当 期 利 益		2,296	4,755	△ 12,301	△ 17,056	△ 258.7